

履修の手引

2001年度

聖和大学
(大学院・大学・短期大学部)

いと思っています。また、乳幼児がどんな食品をどのように食べればよいのか考え、日常生活に取り入れられる献立を作成できる能力を養います。

【講義の全体計画・講義(授業)方法】

平常の講義においては、最初の授業時に全体の説明をし、その後は単品あるいは献立の調理をおこなう実習とします。実習後は、レポートを提出します。

〈実習内容〉

1. 乳汁期, 離乳準備期の栄養
2. 調理の基礎
3. 離乳期の献立
4. 乳児期の献立
5. 乳児期の病気と食事(食物アレルギー)
6. 行事食

テキスト

山口和子編「保育講座小児栄養」ミネルバ書房 レシピおよび資料を配布

【参考文献】

- 鯉坂二夫監修「小児栄養総論」保育教育社
 香川 綾監修「食品成分表」女子栄養大学出版部
 辰巳芳子「手塩にかけた私の料理」婦人の友社(1992)

【成績評価】

出席点重視(原則として全回出席のこと)、レポート

【授業の心構え】

実習で学んだことを自分の食生活にも生かして下さい。
 授業時には、白衣あるいはエプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き、布巾等を用意しておくこと。
 また、清潔な身支度(爪切りなど)をして参加して下さい。

保2	日本国憲法	2単位・後期・選択	後藤 安子
----	-------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

【テーマ】日常生活における具体的事例を通して日本国憲法を考える

【ねらい】憲法条文の背後に存在した、又、存在する否定的な事実を通して、人々の苦しみや悩みを考える。それらの中からどのように当事者が立ちあがり、権利の獲得や実現に努力したかについて具体的な事例を通して学ぶ。そしてすべての人々が自由に豊かに平和に暮らす上で、憲法を基礎とする権利や制度がどのように役立つかを考えてみる。

- 1 憲法制定の歴史
- 2 日本国憲法の基本原理
- 3 憲法の平和主義
- 4 人権について。職場における男女平等

- 5 家庭における男女平等
- 6 信教の自由と政教分離
- 7 表現の自由とマスコミ報道
- 8 冤罪事件と被告人の権利
- 9 日本の学校教育
- 10 環境と公害
- 11 選挙をめぐる諸問題
- 12 地方自治

テキスト

播磨信義・木下智史編「どうなっている!?日本国憲法(改訂版)」法律文化社

その他

出欠をとる。授業中にとりあげる問題について意見を書いて提出してもらうので、憲法にかかわる現代の諸問題について関心をもつこと。

保2	日常生活の科学	2単位・後期・選択	井頭 均
----	---------	-----------	------

授業のテーマ・ねらい

「科学」と聞けば何か難しいようなイメージがあるが、自然の事象を誰もが納得するような形で理解していく方法のひとつであると考えれば、何もことさら構える必要はない。本講義では磁石・電気・動植物など我々の日常生活のなかから幾つかのテーマをとり上げ、科学的な視点から再度見直すことを通して、それらの事象についての理解を深めるとともに科学の面白さを味わってほしい。

- 1 科学とは何か
- 2 科学の学び方
- 3 熱と温度
- 4 色
- 5 電気
- 6 磁石
- 7 地球温暖化
- 8 ごみ問題とリサイクル
- 9 動物の形態と進化
- 10 魚類
- 11 恐竜の仲間
- 12 ホ乳類
- 13 その他

保2	情報処理論	2単位・後期・選択	千葉 武夫
----	-------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

情報化社会と言われる現在の社会において、私たちは様々な情報に囲まれて暮らしている。特にここ数年の情報技術の発展は目をみはるものがあり、今後も高度情報化社会がさらに発展していくものと考えられる。情報化社会では、情報が物やエネルギー以上の資源となる。その情報を家庭や教育現場でいかに利用していくかがわれわれの課題である。

情報の波は子どもたちの生活・家庭・保育の場などにも影響を与えている。保育者はそのことに、まず目を向けることが必要である。また、保育者自身も情報の基礎的な知識とその操作能力などについて適切に学ぶことも重要であるが、むしろそのことよりも重要なことは保育者になるために正しいメディアリテラシーと情報活用能力を養うことである。さらに、情報システムで何ができ何ができないのか、子どもにどのような影響を与えるのか将来的にどのように変化すべきなのか考え、これからの時代に適応する能力を育てることを目的とする。

【授業計画】

- ・情報システムとは
- ・情報の技術進歩について
- ・メディアリテラシーについて
- ・子どもとメディア

保2	教育と社会	2単位・後期・選択	山村 慧
----	-------	-----------	------

授業のテーマ・ねらい

子どもと学校制度、子どもと社会、子どもと経験、子どもと生活、について一つ一つ考え直してみよう。例えば、「経験が大事だ」という言葉を日常会話でもちょっとした学問的な場でもよく使いますが、それはいったい具体的に子どもになにが起こっているのか考えたことがありますか。また、普段使い古されてきた「生活」という言葉をとりあげる理由はなんだろうか。時代構造の変化の中でそのようなことを一緒に考えていきます。

【授業計画】

1. 子どもと近代的学校制度—民族国家と近代的学校教育制度の展開とデューイの思想
2. 子どもと社会の関係についての考え方, video 資料: 子どもからの警告(「子どもは警告する」)
3. 「社会構造」の考え方と学校制度との関係—学校の近代史
4. 社会構造の変動と教育内容の関わり方—新しい大衆教育に向かって
5. 「子ども」の見方と社会システムの作り方—「自然の資源」と「経験」
6. 子どもの「生活」から見た家庭と学校の関係
7. 学習理論と社会構造の関係
8. 学校教育の中の「浪費」と人生の「浪費」
9. 集中力の発達と子どもの「生活」の役割

10. 鍛錬された注意力と問題発見能力
11. 「経験の緻密化」とは何か
12. 「経験」「生活」と現代の学校生活, レポート作成のための質疑応答

テキスト

デューイ, ジョン「学校と社会」岩波書店

【参考資料】

新井郁男他「教育学基礎資料」樹村房
video 資料や新聞資料, 雑誌資料を適宜使用する。

保2	キリスト教保育 I	2単位・前期・必修	広渡 純子
----	-----------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

日本の保育の歴史をふりかえると、子どもの現実に眼をとめ、幼稚園や保育所をつくるなど保育の創始期に活躍したのは、多くが欧米からきたキリスト教の女性宣教師でした。以来、その宣教師たちの使命感と働きに触発された人たちが、日本の保育の発展に積極的な役割を果たしてきました。本学はその「キリスト教保育」の伝統を受け継いでいます。

キリスト教はなぜこのように子どもや保育に深い関心を払い、その実践に携わってきたのか。その基本的な理由はキリスト教の人間理解にあります。本科目では、このキリスト教の人間理解・子ども理解について学ぶことによって、教育や保育の現状を問い直し、これからの保育のありかたを一緒に考えていきたいと思えます。

創造物語のメッセージ, 自由と責任, 自分を生きる, 他者とともに生きる, 祈ることなど, いくつかのテーマにしたがって進めていきます。

テキスト

キリスト教保育連盟「キリスト教保育」(月刊誌)

その他

評価については、まず出席を重視し、レポートなどの課題の内容と総合して評価します。

保2	キリスト教保育 II	2単位・後期・選択	小見 のぞみ
----	------------	-----------	--------

授業のテーマ・ねらい

キリスト教保育 I での学びをふまえて、将来キリスト教保育に携わりたいと願っている人たち、また、特にこの分野に関心を持つ人たちのクラス。

イエスは子どもたちをどうみていたか、教会は子どもたちをどうみているか、礼拝者としての子どもを受け入れ、子どものスピリチュアリティを育むために、私たちはどんな援助が出来るのかなどについて、理解を深めていく。それと同時に、保育の現場での、「子どもと聖書」(聖書物語や礼拝の話), 「子どもと祈り」, 「子どもとさんび」, 「子どもと祝祭」(絵やシンボルを含む), 「家庭への

働きかけ」などを実際に考えていきたい。

【授業方法】講義のほか、課題図書、ディスカッション、実習など。

保2	教育心理学	2単位・前期・選択	三根 久代
----	-------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

本講では、教育という対人的交わりにおける「発達」と「学習」の過程について学ぶとともに、そこで重要な意味をもつ個人差についての理解を深めたい。

授業は、以下のトピックについて行う予定である。ビデオ教材も随時用いる。

1. 教育心理学とは：あなたの児童観は？
2. 発達の定義と様相
3. 初期学習の意味するものは
4. 対人的かかわりの発達
5. 学習の定義と成立条件
6. 学習の指導と応用(1)
7. 学習の指導と応用(2)
8. 知能とは
9. 知能の測定
10. パーソナリティとは
11. パーソナリティ形成の要因：遺伝要因と個体要因
12. パーソナリティ形成の要因：環境要因

テキスト

福屋武人「最新教育心理学」学術図書出版社

その他

成績は、定期試験、講義時の作業参加点および出席点を総合的に評価する。

保2	臨床心理学 (カウンセリングを含む)	2単位・後期・選択	三根 久代
----	-----------------------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、“こころ”の問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究・実践する心理学の一分野である。

授業は、保育者として理解が必要と思われる“こころ”の問題の理解、心理アセスメント、援助の技術と理論に関わる以下の基礎的なトピックについて行う予定である。

1. 臨床心理学とは
2. 心理援助の実際にあふれる：問題の分類と事例の紹介
3. 心理援助の基礎：発達・パーソナリティ理論、ストレス理論

4. 対象を理解する：心理アセスメント

5. 心理援助の方法を知る：心理療法、カウンセリング

テキスト

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫「心とかかわる臨床心理：基礎・実際・方法」ナカニシヤ出版

その他

成績は、定期試験、講義時の作業参加点および出席点を総合的に評価する。

保2	教育情報リテラシー	2単位・後期・選択	中尾 正広・竹内 伸宜 多田 豊
----	-----------	-----------	---------------------

授業のテーマ・ねらい

情報技術のめざましい発達により、情報は迅速かつ正確に処理され、高度通信技術によって、今や得ようと思えば誰でもたいていの情報が手に入る時代となった。情報が世界を駆けめぐり、「情報」に関して国境はなくなったといつてよい。このような高度情報化社会に生きるわれわれにとって、この「情報」をうまく処理し活用する能力が、われわれの生活ならびに知的活動の豊かさを左右する基礎能力といっても過言ではない。また、インターネットを通じて新しいタイプの人間関係のネットワークが急激に広がりつつある。自由に組めるこのネットワークは、将来われわれの生活に全く別な局面を開くに違いない。

教育情報についてその基本概念と情報処理システムを理解し、かつ、実際にコンピュータを使うためのコンピュータ・リテラシーと情報活用能力を養う。とはいえ、半期の授業で講義と実習を並行させて十全に行うことは不可能なので、まずコンピュータと親しくなってもらうために、実習に重点をおき、講義はその中で随時行う。その上で、コンピュータの保育の場における可能性について考えたい。

【講義（授業）の全体計画・講義（授業）方法】

1. オリエンテーション
2. コンピュータを使用するに当たって
3. キーボード練習
4. 日本語ワープロ MS-Word (1)
5. 日本語ワープロ MS-Word (2)
6. 日本語ワープロ MS-Word (3)
7. 日本語ワープロ MS-Word (4)
8. 日本語ワープロ MS-Word (5)
9. 日本語ワープロ MS-Word (6)
10. 日本語ワープロ MS-Word (7)
11. 実技試験 (MS-Word)
12. 予備 (データ変換、転送など)

テキスト

井上和子・竹内伸宜・中島由貴「情報活用のでほども」創元社 1997

その他

【評価方法】

平常点（課題の提出など）	100点×1	
実技試験（MS-Word）	100点×2	合計500点÷5=100点（満点）
筆記試験またはレポート	100点×2	

【授業への心構え／履修上の注意】

実習が主であるので10月の授業開始第1週目から出席すること（やむを得ず欠席する場合はその旨担当教員まで届けること）。講義は随時行う。課題が出るので自主利用時間に自習して提出すること。教室内飲食厳禁。

保2	精神保健	2単位・後期・選択	塩山 晃彦
----	------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

心身ともに発達途上にある児童・青年の精神保健の基本的事項について述べます。特に、児童精神医学の立場から、児童期・青年期の精神的問題の背景や問題解決のいとぐちについて論じます。また、症状を呈する児童のみに目を向けるのではなく、児童の成長を支える環境、すなわち家庭や保育・教育の場が児に及ぼす影響を考慮して、養育者（親）や保育・教育者自身の精神保健上の問題を紹介し、精神健康の保ち方の工夫について触れます。

時間があれば、トピックスとして虐待やいじめなど、今日的な課題について考えます。

授業テーマ

- 1 精神保健総論（心の健康とは）
- 2 発達論（知能と情緒の発達）
- 3 発達の要因1（精神遅滞）
- 4 発達の要因2（自閉症スペクトラム）
- 5 脳器質的要因（てんかん）
- 6 心理的要因1（心身症的発症・心身相関）
- 7 心理的要因2（行動異常的発症）
- 8 心理的要因3（神経症的発症・葛藤と防衛）
- 9 療育と精神療法的関与
- 10 青年期の精神保健
- 11 成人の精神保健
- 12 トピックス：虐待・いじめ

保2	障害児保育	2単位・後期・選択	和田 薫
----	-------	-----------	------

授業のテーマ・ねらい

*教育の原点と言われる障害を持つ乳幼児の保育について、以下の観点から学ぶ。

- ・障害児保育，統合保育の歴史的な流れ，その意義と必要性について。
- ・障害を持つ乳幼児の心身の発達について
- ・診断の意味とさまざまな治療法について
- ・それぞれの障害についての基礎的な知識と保育への配慮

講義に際しては、具体的に障害を持った子ども一人一人をいかに理解し、保育活動の中で生かしていくかと言ったことを大切にしていきたい。

*主として、講義を中心に行うが、保育方法や、プレイセラピーのあり方、記録の仕方等についてはビデオなどを使って、具体的に説明していきたい。

*実習の経験を分かちあって、疑問点や保育のあり方について、話し合いを考察していく。

【授業計画】

- 1 障害児保育の基礎—臨床的な子どもの見方
- 2 障害児保育の基礎—障害児保育に必要なことと障害の原因
- 3 発達障害Ⅰ—精神遅滞
- 4 発達障害Ⅱ—精神遅滞
- 5 発達障害Ⅲ—広汎性発達障害
- 6 発達障害Ⅳ—特異的発達障害
- 7 問題行動／情緒障害
- 8 ことば—言語障害
- 9 ことば—言語環境
- 10 保育のために—目的・方法（聖和障害児教室を中心に）
- 11 保育のために—子どもの評価・個別指導
- 12 保護者とともに—障害のある子どもを持つ親の心理

保2	ゼミナール	4単位・通年・必修	井頭 均・上田 哲世・宇都宮正人 清原 知二・土田美世子・中川 香子 増山 初子・三根 久代
----	-------	-----------	--

授業のテーマ・ねらい

乳幼児の保育・教育に関する研究テーマを下記の中から各自選び、担当教員の指導のもとで卒業研究レポート（または作品）を作成する。ゼミの進め方は学生の選択した研究領域の違いや担当教員によって一律ではないが、概ね下記（授業計画）のような方法で進められる。

【研究領域】

- ① 保育理論，保育思想・保育史，保育制度
- ② 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）

- ③ 保育方法（保育形態，行事，評価）
- ④ 障害児保育・統合保育
- ⑤ 乳児保育
- ⑥ キリスト教保育・同和保育
- ⑦ 児童福祉
- ⑧ 児童心理（発達臨床・教育）
- ⑨ 児童文化（遊び，遊具，玩具）・児童文学
- ⑩ 幼児音楽，子どもの音楽鑑賞教育
- ⑪ 保育者論（保育者の資質，保育者養成）
- ⑫ 家庭教育（父親・母親の役割，親との連携等）地域との相互支援
- ⑬ 保育課題（国際理解教育，平和教育，環境教育，幼小連携，三歳児保育，子育て支援等）

前期

1. 文献の探し方，研究レポートのまとめ方の指導。
2. 研究テーマの決定，研究概要と計画の発表，その過程における助言指導。
3. 研究レポート題目提出（7月）

後期

1. 研究経過報告とそれに対する助言指導。
2. レジメを作成し，ゼミクラスにおいて最終発表。
3. 研究レポート・作品提出（1月末）

研究レポート（作品）作成のためによく計画を立て，主体的・積極的に研究を進めること。特に前期は教育保育実習が組み込まれているが，そこでの経験も研究に生かしていくことができるように問題意識をもって実習に臨むこと。

その他

研究レポート（作品）の内容，作成過程での取り組みの姿勢およびディスカッションへの参加の態度，出席状況などの総合評価による。

保2	保育原理 I - B	2 単位・前期・選択	上田 哲世
----	------------	------------	-------

授業のテーマ・ねらい

本科目は，「保育原理 I - A」に引き続くものである。それを基礎にして，保育の現状と課題を探り，実態の認識を通して，今，求められている保育について学ぶ。

保育者は，ただ保育技術が巧みであることが求められるのではなく，しっかりとした保育理念をもつとともに，ものごとを正しくとらえ，追求していく姿勢が必要である。子どもたちが充実した，その時期にふさわしい園生活を送ることができるように，保育環境や保育内容，保育方法を考え，その実践に結びつける力を養う。特に21世紀を前にして改訂された「保育所保育指針」，「幼稚園教育要領」，「キリスト教保育指針」を取りあげ，改訂の背景やそこに示されている内容について，共に考える。

テキスト

山本和美「現代保育内容総論」建帛社 2000
 保育所保育指針・幼稚園教育要領・キリスト教保育指針

その他

授業内における課題，レポート，平常点（出席状況・出席態度）により総合評価する。

保2	保育原理 II	2 単位・後期・選択	島田 ミチコ
----	---------	------------	--------

授業のテーマ・ねらい

誕生から6歳までの間に，家庭，保育所，幼稚園などで受ける保育が，子どもの人格形成に大きく影響する。そこで保育についての幅広い一般的な内容と方法は保育原理 I で学ぶが，保育原理 II では，それをさらに深く掘り下げて学ぶ。

具体的には，幼児教育に多大な影響力を与え続けている2人の教育学者，フリードリッヒ・フレーベルとマリア・モンテッソーリの教育理論を通して，宇宙規模から捕えられた人間教育，幼児観，保育観を学ぶことにより，保育の理論をより確かなものにするるとともに，4年間大学で学んだ理論と保育現場の実践例とを結びつけながら，理論と実践の一致を目指すことを目的とする。また，子どもの生活の大半をしめる「遊び」とは何か，保育の中での「自由」とは何か，教具・教材の位置づけなど考察しながら，いま一度保育の原点とは何かを探求する。

- 1 フレーベルの生涯
- 2 フレーベルの教育学の遺産 ロマンティック
- 3 // 遊び
- 4 // 労働
- 5 // 部分的全体
- 6 フレーベル教育学の原理と実際
- 7 フレーベル教育遊具の理論
- 8 モンテッソーリの生涯
- 9 モンテッソーリ教育原理
- 10 モンテッソーリ教具の特質
- 11 モンテッソーリの自由について
- 12 まとめ

テキスト

荘司雅子「フレーベル教育学への旅」フレーベル館 1986

保2

家庭教育論

2単位・後期・選択

日浦 直美

授業のテーマ・ねらい

「家庭の教育力が低下してきた」という言葉を最近よく目にし、耳にするようになった。しかし、家庭の教育力は本当に低下しているのだろうか？ 家庭の教育機能とはどのようなことを指すのだろうか。家庭教育に関して今どのようなことが問われ、求められているのだろうか。

授業では上記のような問いを基に、家庭・家族の機能と家庭教育の中身、および家庭での子育てで不安と現在の日本の家庭教育の課題について考察する。また、家庭での子育てをサポートする幼稚園や保育所、および地域社会の役割について考察し、保育者が子育てのパートナーとして果たす役割やその技法、およびカウンセリング・マインドについても学ぶ。

テキスト

プリントを随時配付する

その他

参加型学習を促す作業を取り入れながら授業を進める。従って、主体的、積極的な授業態度を期待する。

保2

幼児音楽

1単位・後期・選択

中村 千晶

授業のテーマ・ねらい

子どもは生来、音楽が好きで、音楽的な力をたくさん持っています。音楽は、子どもの心身の成長発達に欠くことのできないものです。では、どのような援助によって、幼児の持っている音楽的能力を引き出すことができるのでしょうか。また、どのようにしたら音楽性を伸ばすことができるのでしょうか。

音楽が幼児に与える影響は大きいものです。保育者の立場から、音楽活動が楽しく、意義深いものとなるようにしなければなりません。幼児に即した音楽教育の方法を見いだすことを目的として、これからの幼児と音楽の方向性について考察していきたいと思えます。

概説、幼児にとって音楽とは

幼児の音楽教育の方法論について

コダーイ、ダルクロワーズ、シュタイナー、オルフ

幼児の音楽活動について一歌う活動を中心に

幼児の音楽性の発達

幼児音楽教育における課題と展望

テキスト

山浦菊子編「保育におけるムーブメント」(桐みらい 1996)

必要に応じて、参考文献の紹介とプリントを配布します。

その他

授業への参加態度、レポート、定期試験などによって、総合的に評価します。

実習などの経験も踏まえ、自分なりの問題意識を持って、一緒に考える姿勢で臨んでください。

保2

造形教育

2単位・後期・選択

清原 知二

授業のテーマ・ねらい

乳児や幼児の造形活動について研究します。「表現」活動は多方面にわたりますが、そのうちの造形活動に関連する行為を取り上げ、どのように発達していくのか道筋をたどります。また乳幼児の造形行為をどのように援助していくのか、乳幼児の立場、指導者、母親の立場から考察します。そのために乳幼児の遊びの中から造形活動に関わる行為をみつけ出し、実際に体験したり、発展の可能性を実験しながら、幼児の造形教育について考えていきます。特に乳幼児の造形活動は「遊び」であるという視点から、造形あそびを中心にして展開させていきます。

授業は、造形あそびの具体的な事例を発表することを通して、考えを深めていきます。

【授業計画】

1. オリエンテーションと講義
2. 教材研究の方法と考え方(造形遊びを中心に)
3. 教材研究
4. 教材研究
5. 教材研究
6. 教材研究の発表
7. 教材研究の発表
8. 発表予備日
9. 保育の中で使われる教材についての考え方
10. 教材研究
11. 教材研究
12. まとめの講義

テキスト

花篤實監修 永守基樹・清原知二「幼児の造形教育の基礎知識」建帛社 1999

他随時紹介

【参考図書】

随時授業中に提示する。

その他

【評価方法】

提出物はいかに努力したかを中心に、工夫のよさ、目的性との合致などをみます。企画実演ではその計画性、内容、取組姿勢をみます。

【授業への心構え／履修上の注意】

提出だけの参加は認めません。テーマごとの説明をよく聞いて、積極的に計画実行にあたっていただきたく思います。うまくしようと思うことより、懸命に取り組み、造形活動を楽しむことが大切

だと思えます。

保2	国語表現法	2単位・後期・選択	増山 初子
----	-------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

様々な場面における日本語の表現というものを、主に文章を中心として考え、文章作法に必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。実作と添削を中心に授業を進めてゆく。受講者は、積極的に文章を書くという姿勢で、授業にのぞんでほしい。

「正確に」、「適切に」、「豊かに」表現することの大切さを、受講者各自が実際に文章を書くという行為を通して、再認識することを目指している。

- ① 私たちの身の回りの「ことば」
- ② 語彙と文章
- ③ 文章を書くこと、原稿用紙の使い方
- ④ 国語表記、句読法と文の構成
- ⑤ 〈読んで〉書く
- ⑥ 〃
- ⑦ 〈見て〉書く
- ⑧ 〃
- ⑨ 〈考えて〉書く
- ⑩ 〃
- ⑪ 課題文の作成
- ⑫ 〃

テキスト

プリントを配布する。

その他

レポートによる定期試験と数回の課題レポートと授業への参加態度などを合わせて総合的に評価する。平常点(課題レポートと出席状況など)50点、レポートによる定期試験50点、計100点。出席重視。

保2	人と環境	2単位・後期・選択	中川 香子
----	------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

私たちは、自分を取りまく環境のなかで生活している。しかし、ひとくちに環境といっても、その指し示す範囲は広い。それは、歴史であったり、国や民族、文化、社会、教育・保育機関、家族、仲間であったりする。つまり、環境とは私たちに直接的、あるいは間接的に影響をあたえるすべてのものなのである。

本講義においては、子どもと環境を歴史的にながめたいうで、今日の子どもを取りまく環境について考えていく。また、乳幼児の生活の中心となる遊びの考察を通して、子どもの心身の成長と環境について学ぶ。

1. 人間と環境
2. 歴史のなかの子どもと環境
3. 伝承遊びと子どもの環境
4. 現代の子どもと遊び
5. 家族と環境
6. 地域と環境

テキスト

授業中、随時プリントを配布する

その他

欠席・遅刻・提出物の遅れは減点の対象となる

保2	数の教育	2単位・後期・選択	千葉 武夫
----	------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

我々の身の回りにあるものは、ある形やまとまりがあり数えることができる。また、人間の生活においては、必ず人間のものとの関係が存在する。普段の生活の中で、ものが足りない・ちょうどよい・あまる・多いなどと言えるのは、まず、人の数ともの数を対応させており、時には数量を操作していることになる。このようなことから、人間の生活では、衣食住すべての数がつきまとい、行動・人間関係・出来事にも数が無意識のうちに重要な意味を持っていることになる。

本講義においては、乳幼児が数について理解する過程や、その時期にはどのような援助が好ましいかなどを考察する。保育現場での数を扱うことについての実践例などを参考に履修者と共に考え、数を扱うための考えやアイデアを学びたく思う。

講義・演習は下記の項目を取り上げる予定である。また、様々な教材・遊具に触れたりするなかで、子どもの数理解について考える。そして、学んだことを「カタチ」に表したい。

【授業計画】

- 1 人間の生活と数量(ものと数・量)
- 2 こどもと数量(ものごとをあらわす言葉・数)
- 3 数量感の構造と発達①(唱えることと数えること・集める並べる)
- 4 数量感の構造と発達②(数えることと数がわかること)
- 5 数量感の構造と発達③(量や空間などの把握)
- 6 数量感の構造と発達④実践例と指導について(乳児・幼児)
- 7 数についての諸理論
- 8 ロゴについて(実践)
- 9 数・量・形に関連のあるおもちゃについて(カード、パズル、形抜きなど)

- 10 数・量・形に関連のあるおもちゃについて (パネルシアター・OHP・風船など)
- 11 数・量・形に関する教材研究 (すごろく・カレンダーなど)
- 12 まとめ

保2	保育内容 健康	2単位・前期・選択	高内 正子
----	---------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

幼児の保育において、子ども達が心身ともに健やかに成長を遂げるよう、配慮することは、基本的に重要なことである。乳幼児の時期の健全な発育が、後の健康に大きく影響を及ぼすことから、乳幼児の健康をまもるような生活環境について考察し、現代社会における、乳幼児の身体面、精神面、運動面に影響するさまざまな問題点を認識する。

さらに保育現場における、乳幼児の遊びの実態や、発達段階に応じた体育指導、多くの行事などとおしての健康保育への取り組みや健康教育、健康指導計画、家庭に対する連絡・指導・乳幼児の健康に対する望ましい環境構成、安全教育、安全管理について、具体的な指導計画、指導内容を検討し、保育現場で実践できるよう資料を作成する。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 保健便り4月号 子どもと保育行事
- 3 // 5月号 子どもの運動指導
- 4 // 6月号 現代社会の子どもの遊び
- 5 // 7, 8月号 子どもと自然環境
- 6 // 9月号 子どもと食生活
- 7 // 10月号 子どもと心の健康
- 8 // 11月号 幼児期からの禁煙教育
- 9 // 12月号 保育における性教育
- 10 // 1月号 子どもの健康と早期教育
- 11 // 2月号 子どもの安全教育
- 12 // 3月号 幼児期の健康

テキスト

鯨坂二夫監修・米谷光弘編「健康」〈理論編〉保育出版社

その他

レポート提出、資料提出、発表に対する姿勢、発表内容により総合評価する。

保2	保育内容 人間関係	2単位・前期・選択	千葉 武夫
----	-----------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

人間は誕生以前から、外界からのさまざまな刺激を受け、吸収している。また誕生後も多くの刺激を受け成長する。その影響の中心となるのが「人」ではないだろうか。ここでは、乳幼児からの成長発達で、人との関係を持ちながら育っていく姿や、保育場面で他者との関わりなどを考察し、さらに、人とかかわる力の発達をどのように援助すべきかなどを、考察したい。

【授業計画】

- 1 「人間関係」について・学ぶ存在としての人間について
- 2 「人間関係」で何を学ぶのか、その意味について・保育内容「人間関係」について
- 3 人との関りの発達 家庭での人との関わり (母親・父親・兄弟・地域・仲間)
- 4 人との関りの発達 幼稚園・保育所での関りの発達 (保育者・仲間)
- 5 子ども相互の交わり (かかわりの動機・かかわりの発展・多様な感情体験)
- 6 保育者の役割と援助
- 7 豊かなコミュニケーションの在り方について①
- 8 事例研究 (Yちゃんの事例)
- 9 事例研究 (Yちゃんの事例についてディスカッション)
- 10 豊かなコミュニケーションの在り方について②
- 11 事例研究 保育現場の試み
- 12 コミュニケーションを高めるために・遊びや絵本の紹介・まとめ

テキスト

オムリ慶子 柏原栄子他「子どもの育ちと人のかかわり」宣協社

その他

【評価方法】

平常の学習姿勢・レポート・定期試験などにより、総合的に評価する予定である。

【授業への心構え履修上の注意】

積極的な態度で授業に参加することを望む。

保2	保育内容 表現II	2単位・前期・選択	中川 香子
----	-----------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

私たちは、日々さまざまな表現を行いながら生活している。自分自身が個性的な存在として成熟するためにも、他者との関係を育むためにも、それは必要なことである。私たちが生きることは表現することそのものだといってもいい。

自分を表現することは、生まれたばかりの乳児からはじまっている。子どもが育つということは、かならず表現が育つという側面をもっているからである。

授業では、表現を乳幼児の成長という意味で幅広くとらえつつ、なかでも美術的・造形的表現に焦

点をあてる。保育における造形的表現の意味、乳幼児の造形的な発達、保育者の援助などを講義と実技によって学ぶ。

1. 領域としての「表現」
2. 子どもと表現
3. 子どもと造形的表現
4. 乳児の造形遊び
5. 乳幼児の造形活動の発達（0～2歳）
6. " （3～5歳）
7. 乳幼児の造形表現の特徴
8. 子どもの表現を育てる保育者の援助
10. "
11. 子どもと創造性
12. "

テキスト

中川香子編「表現 子どもと造形遊びの世界」(株)みらい 1995

幼稚園教育要領、保育所保育指針

その他、随時プリントを配付する

その他

欠席・遅刻・提出物の遅れは減点の対象となる

保2	保育指導法	2単位・前期・選択	井柳 基名
----	-------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

・ 幼児教育における「指導」とは、一般に用いられる「指導」とは意を異にしており、保育者の直接的及び間接的な関わり全てを幅広く対象としている。子どもの各年齢の発達段階を理解し、子どもの主体性を尊重しながら、一人一人の個人差や個性を踏まえた指導方法を「考え」、具体的な知識や技術を基に「実践し」、主観的及び客観的に「省察」していくことを学ぶ。

したがって、「保育指導法」という講義名であるが、保育のマニュアルを伝授していくのではなく、自ら「指導法」を生み出す力を得ることが目的である。

また、保育者自身の人間性が深く影響することを知り、保育科の最終時期に自己点検を促す機会としたい。

1. 保育指導法とはなにか
2. 教育課程と指導計画
3. 「関係」の指導
4. 「遊び」の指導
5. 「生活」の指導
6. 子ども理解の重要性

7. メディアと幼児教育
8. 事例研究
9. 保育者の感性、人間性
10. これからの幼児教育

以上の項目を講義及び演習形式で行う。

テキスト

適時指定する。

その他

小グループ単位での活動、課題があるので協力に取り組んで欲しい。

保2	社会福祉方法論	2単位・通年・選択	山中 俊克・土田美世子 (森 知子)
----	---------	-----------	-----------------------

授業のテーマ・ねらい

【テーマ】 保育者に必要な社会福祉方法（援助技術）の理論と実際を学びます。

【ねらい】 前期は主として社会福祉の概念の整理と社会福祉方法論総論とを中心に、児童の発達過程における個別性、保育者の役割や社会福祉援助技術者の専門職倫理等を学んでゆきたいと思います。又、個別援助技術（ソーシャル・ケースワーク）の領域から、児童の個別ケースに対しての援助方法についても演習します。後期は、リーシャル・グループワークの領域から心身の発達や問題解決のための集団援助技術について演習します。そして、ソーシャルコミュニティワークの領域から、児童から高齢者を含む地域の人々の福祉増進を基本に、住民参加を主体とした地域援助活動について考察してゆきたいと思います。

【授業計画】

前期

1. 授業内容の説明
2. 社会福祉の概念
3. 児童福祉施設の機能
4. 子どもの成長・発達
5. ソーシャルワークの共通基盤
6. ケースワークの概念
7. ケースワークの原則
8. ケースワークの人間関係
9. 面接技術について(1)
10. " (2)
11. ケースワークの展開(1)
12. " (2)

後期

1. 児童の発達と集団
2. グループワークの概念
3. グループワークの活動
4. グループワーク原則
5. グループワークの展開(1)
6. " (2)
7. 記録、評価について
8. グループ援助活動事例
9. コミュニティワークの概念
10. コミュニティワークの展開
11. コーディネーターについて
12. まとめ

テキスト

授業の最初にお知らせします。

その他

本科目は講義だけでなく「演習」も実施するので積極的な授業参加を望みます。

保2	小児栄養	2単位・後期・選択	今津屋 直子
----	------	-----------	--------

授業のテーマ・ねらい

小児期は、発育の旺盛な時期であり、心身ともに形成の基盤となる時期です。本講義は小児の発育に達した栄養法について学びます。すなわち、子どもが何をどのようにして食べたらいいか、食品と調理法について正しく理解します。栄養というと栄養所要量が話題となりやすいのですが、栄養は栄養素として摂るのではなく、食品として摂っています。食事のたびに栄養所要量を頭に浮かべて食事をしません。したがって、使える栄養学を身につけなければ学ぶ意味がありません。自らの食生活を見直し、日常から栄養に対する関心を高めることによって、授業で学んだ栄養学はさらに実践的なものとなると期待しています。

また、栄養状態が良くなった現代においては、子どもの食生活の問題点も変化してきました。子どもの栄養不足よりも、大人の生活が影響を及ぼしている欠食やアレルギーの発生などの問題を抱えています。授業ではこれらの問題をとりあげ、検討していきます。

【講義全体計画・講義方法】

1. 健康な食生活
2. 栄養の基礎知識
3. 栄養機能の発達
4. 子どもの発達と栄養
5. 乳児の栄養
6. 幼児の栄養
7. 保育所の給食
8. 食品の知識

講義中心。

テキスト

山口和子編 「保育講座小児栄養」 ミネルバ書房

【参考文献】

香川 綾監修 「食品成分表」 女子栄養大学出版部

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験

【授業への心極え／履修上の注意】

小児栄養実習に関連させて学んでください。

保2	乳児保育II	2単位・後期・選択	高内 正子
----	--------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

保育所における3歳未満児の保育について、現状の保育内容と保育者に求められている乳児保育のあり方の課題などを考察する。胎児期により3歳未満児までの発達経過について理解を深め、乳児ひとりひとりの発達段階に応じた、集団における個人を大切に保育のあり方について検討する。特に乳児保育においては、家庭との連絡は密に行う必要があり、現場での保育は、家庭保育にも影響を与え得る重要な役割を担っていると言える。また、乳児の月齢による特有の問題についても、保育実習などの経験を通して、できるだけ身近な事例について松話し、子どもの要求に適切に対応できるように、考え方や技術を養う。さらに子どもをとりまく環境について考察し、時代に要請される保育と本来あるべき保育について検討を重ね、延長保育、夜間保育、病児保育、統合保育、保育センターシステムなどについて、正しい認識をもつ。新しい社会において保育者として、基本的に子どもを大切に愛情をもって、求められる保育を実施してゆける技術と能力を養う。

【授業計画】

- 1 胎児期の健康
- 2 新生児期の健康
- 3 0歳児の発達
- 4 0歳児の姿
- 5 1歳児の姿
- 6 2歳児の姿
- 7 乳児のあそびと健康（グループ研究、手作り玩具、絵本、うぶ着など）
- 8 乳児の生活（食事・排泄・睡眠・清潔など）
- 9 延長保育・夜間保育・病児保育について
- 10 海外の乳児の姿・未熟児の闘病の姿

テキスト

特になし

その他

乳児の手作り玩具・うぶ衣・小物などとレポートにより評価する。

保2	教育実習II	3単位・前期・選択	広渡 純子・清原 知二・浅野 葉子 岩阪アツ子・森谷 恭子
----	--------	-----------	----------------------------------

授業のテーマ・ねらい

幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園において行う実習である。「教育実習I」における参観および参加実習の次の段階の実習として位置づけられ、責任実習を伴う。幼稚園教育の目標、幼児の生活、保育の内容、保育者の援助など、保育の理論と実際を現場において体験的に学ぶことを目的とする。

5月あるいは6月に協力実習園において三週間の実習を行う。遠方の学生に限り、6月のみ自己依

類による地元での実習が可能である。実習記録を実習園に提出し、担当者の指導を受ける。実習期間中は教員が実習園を訪問し、実習状況の視察および指導、助言にあたる。

その他

本科目を履修するためには「教育実習Ⅰ」の単位をすでに取得していなければならない。また「教育実習Ⅱ事前・事後指導」を同時に履修しなければならない。

実習期間中は実習に専念し、心身の健康管理に留意し、免許取得への強い意志をもって実習にのぞむこと。原則として実習中の欠席は認めない。ただし実習担当者が認めた理由による4日以内の欠席は補充実習を認める。5日以上欠席した場合は追試扱いとし、9月に実習を行う。その場合、原則として実習費を再徴収する。

評価については、実習日数、実習園の評価、実習園への提出物、大学への提出物等を総合的に評価し、可否を判定する。(詳細は「教育実習Ⅱの手引き」に記載)

なお、本科目の成績評価は「教育実習Ⅱ事前・事後指導」の成績評価と連動する。

保2	教育実習Ⅱ 事前・事後指導	1単位・前期・選択	広渡 純子・清原 知二・浅野 葉子 岩坂アツ子・森谷 恭子
----	------------------	-----------	----------------------------------

授業のテーマ・ねらい

5月および6月に行われる「教育実習Ⅱ」(幼稚園実習)のための事前・事後指導である。事前の指導としては、オリエンテーションをはじめ小グループでの話し合いなどを通して、本格的な実習にむけてのさまざまな準備を行う。また、事後の指導では、実習で体験したことの意味づけや自己評価、それまでに獲得してきた保育観の発展、保育者としての自覚の再確認、さらに新たな課題発見をめざす。

事前指導

1. オリエンテーション
実習の意義・目的・内容・心得・評価などについて
2. 幼稚園教育の理解
幼稚園の一日、子どもの姿と保育者の援助、障害児保育など
3. 指導案の作成と教材研究

事後指導

1. 実習の体験報告および反省・評価
2. 自己課題の発見と取り組み
3. 現職保育者による講演など
4. まとめ

テキスト

文部省「幼稚園教育要領」

キリスト教保育連盟「キリスト教保育」(月刊誌)

その他

本科目は「教育実習Ⅱ」と同時に履修しなければならない。

授業への出席を重視する。無断欠席は認めない。実習への意欲と自覚をもって、積極的にディスカッションに参加すること。

評価については、授業への出席状況および参加態度、提出物の内容および提出状況等を総合的に評価し、可否を判定する。

なお、本科目の成績評価は「教育実習Ⅱ」の成績評価と連動する。

保2	保育実習Ⅰ-A, 保育実習Ⅱ	各2単位・前期・選択	千葉 武夫・橋 実千代・柏原 栄子 森本宮仁子・鶴飼真理子・(森 知子)
----	-------------------	------------	---

授業のテーマ・ねらい

保育士資格取得のための必修科目であり、保育所において行なう実習である。「保育実習Ⅰ-B」(保育所以外の児童福祉施設における実習)とともに構成している。本科目は、保育所保育の特性や目標、乳幼児の生活、発達的特徴、保育内容の展開、保育士の職務内容と役割など、保育の理論と実際を現場において体験的に学ぶことを目的とする。

【授業計画】

「保育実習Ⅰ-A」と「保育実習Ⅱ」は連続して行なう。実施時間は、5月あるいは6月に協力実習園において3週間行なうが、6月の場合のみ、希望によって公立保育所や自己依頼による地元実習をすることができる。

実習期間中、教員が各園を訪問し、実習状況の視察および指導助言にあたる。

その他

【評価方法】

実習の出席、実習園の評価、実習園への提出物、大学への提出物等、総合的に評価し可否を判定する。(詳細は「保育実習Ⅰ-A・Ⅱの手引き」に記載)

なお、本科目の成績評価は、「保育実習Ⅰ-A、Ⅱ事前・事後指導」の成績評価と連動する。

授業への心構え/履修上の注意

原則として実習中の欠席は認めない。但し、実習担当者が認めた理由で、5日以上欠席した場合は、追試扱いとし、8月もしくは9月に実習を行うものとする。その場合、原則として実習費を再徴収する。

心身の健康管理と資格取得への自覚と強い意志をもって、実習にのぞむこと。また、実習中は、実習に専念できるようにしておくこと。

保2	保育実習Ⅰ-A,Ⅱ 事前・事後指導	1単位・前期・選択	千葉 武夫・橋 実千代・柏原 栄子 森本宮仁子・鶴飼真理子・(森 知子)
----	----------------------	-----------	---

授業のテーマ・ねらい

本科目は5月および6月に行われる「保育実習Ⅰ-A」「保育実習Ⅱ」(保育所実習)のための事前・事後指導である。事前の指導としては、オリエンテーションをはじめ小グループでの話し合いなどを通して、本格的な実習にむけての準備を行う。また、事後の指導では、小人数制の授業のなかで、

実習で体験したことの意味づけや自己評価、それまでに獲得してきた保育観の発展、保育者としての自覚の再確認、さらに新たな課題発見をめざす。

【授業計画】

事前指導

1. オリエンテーション
 - ・ 保育所実習の意義、目的、内容
 - ・ 実習書類・記録等の記録の方法と実習の心構えの理解
 - ・ 実習施設に関する情報の収集
2. 保育所の社会的役割と保育士の仕事
 - ・ 保育所の一日
 - ・ 乳幼児の姿と保育士の援助
 - ・ 入所児童の多様な保育ニーズへの対応
 - ・ 子育て支援
3. 指導計画の作成と教材研究
4. 模擬保育の試行的実践と討議
5. 実習課題の設定

事後指導

1. 実習体験の発表と体験の共有化
 - ・ 保育所実習の自己課題、反省
2. 現職保育士の参加を得て指導助言
3. 保育士になるための自己課題
4. まとめ

テキスト

「保育所保育指針」厚生省児童家庭局
「キリスト教保育」キリスト教保育連盟

その他

【評価方法】

授業への出席状況、提出物、および協議への参加態度など、総合的に評価し、可否を判定する。
なお、本科目の成幼評価は「保育実習Ⅰ-A」「保育実習Ⅱ」の成績評価と連動する。

【履修上の注意】

無断欠席は認めない。授業への出席を重視する。実習への意欲と資格取得への自覚をもって、積極的にディスカッションへ参加すること。

本科目は「保育実習Ⅰ-A」「保育実習Ⅱ」と同時に履修しなければならない。

保2	保育実習Ⅲ	2単位・前期・選択	土田美世子・(森 知子)
----	-------	-----------	--------------

授業のテーマ・ねらい

【テーマ】通園型施設の保育士の役割とその働きについて学ぶ。

【ねらい】この科目は、保育士資格の取得のための選択科目であり、基本的に障害をもつ幼児の通園型施設での実習機会を提供する。

【授業計画】

障害児通園施設において10日間の実習を行う。実施時間は、2年次の指定された夏季休暇中である。なお、本実習のオリエンテーションは、2年次前期に開講される「保育実習Ⅲ事前・事後指導」において実施し、エバリエーションは、実習終了後のレポート提出・面接によって実施する。

その他

【評価方法】

成績、点数による評価ではなく、可否のみの評価である。可否の判定については、ポイント制によって行う。

【授業への心構え／履修上の注意】

先修条件をクリアしていない者は、履修できない。初回授業で科目履修のためのオリエンテーションを実施する。これに参加しない学生は、履修しないものとみなす。履修者は、前期に開講される「保育実習Ⅲ事前・事後指導」に出席しなければならない。障害をもつ幼児の保育を学びたい、という強い意欲をもつ学生の履修を希望する。

保2	保育実習Ⅲ 事前・事後指導	1単位・前期・選択	土田美世子・(森 知子)
----	------------------	-----------	--------------

授業のテーマ・ねらい

【テーマ】「保育実習Ⅲ」のオリエンテーション

【ねらい】この科目は、「保育実習Ⅲ」のための事前協議であり、保育実習Ⅰ-Bを踏まえた上でのより高度な実習に必要な心構えや、実習施設についての情報提供、障害をもつ幼児の保育技術、実習記録の書き方等を指導する。

【授業計画】

全体計画としては、①オリエンテーション、②実習希望施設の調整、③実習施設の配当調整、④～⑩講義と実習関係資料の閲覧、⑪実習計画の策定を予定している。講義日程等は、初回に資料配布する。

成績は、「保育実習Ⅲ」の成績評価と連動する。したがって、点数による評価ではなく、可否のみの評価であり、「保育実習Ⅲ」の単位が取得できない場合は、本科目の単位も取得できない。

テキスト

障害をもつ子どもたちの保育・療育をよくする会 「障害児を育てる」かもがわ出版 1995 第2版

その他

履修者は、全ての授業に出席を義務づける。また、この科目は、「保育実習Ⅲ」のための事前協議を兼ねており、「保育実習Ⅲ」を履修する場合には、必ず履修しなければならない。反対に本科目のみの単独履修は認められない。

履修に先立って、「保育実習Ⅲ」オリエンテーションを実施する。履修希望者は必ず参加すること。

英2	日本語表現	2単位・前期・選択	増山 初子
----	-------	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

様々な場面における日本語の表現というものを、主に文章を中心として考え、文章作法に必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。実作と添削を中心に授業を進めてゆく。受講者は、積極的に文章を書くという姿勢で、授業にのぞんでほしい。

「正確に」、「適切に」、「豊かに」表現することの大切さを、受講者各自が実際に文章を書くという行為を通して、再認識することを目指している。

- ① 私たちの身の回りの「ことば」
- ② 文章を書くこと、原稿用紙の使い方
- ③ 国語表記、句読法
- ④ 良い文章の条件(I)
- ⑤ //
- ⑥ // (II)
- ⑦ //
- ⑧ 課題文の作成(I)
- ⑨ //
- ⑩ // (II)
- ⑪ //
- ⑫ // (III)

テキスト

プリントを配布する。

その他

【評価方法】

レポートによる定期試験と、数回の課題レポートと授業への参加態度などを合わせて総合的に評価する。平常点(課題レポートと出席状況など)50点、レポートによる定期試験50点、計100点。出席重視。

英2	観光学	2単位・前期・選択	塩路 有子
----	-----	-----------	-------

授業のテーマ・ねらい

観光とは、異文化理解の具体的実践であるという視点にたつて、観光の文化的側面に重点をおきながら、観光研究の様々なトピックを紹介する。具体的には、観光を文化、国際交流、産業、エコロジーなどの面から事例を中心に分析、解説していく。

国際社会における異文化理解のための基礎的な視点・考え方を観光を通して学んでいただくことが、授業のねらいである。